



23年度 第10号
通巻1796号

発行所:
高知県教職員組合
〒780-0850
高知市丸ノ内2-1-10
TEL088-822-4135
FAX088-823-2355

全教職員
配布
読んでね

県教組HPは

↓こちらから



県教委に三つの申し入れ 研修の負担軽減等を要請

高知県教組・高教組では、11月に賃金労働条件改善に向けた県教委交渉(以下、賃金交渉)を行いました(詳細は、12月1日付け号外参照、県教組HPで公開中)。その交渉時には、時間の制約もあり交渉事項としなかったことなどを中心に、12月に県教委に要望書や申し入れ書を三つ提出し、様々な改善を要求しました。

1. 賃金労働条件改善に向けた要望書

賃金交渉の要求書には細かな内容となるため入れられなかった項目をまとめ、要望書として12月4日に県教委に提出しました。例えば県教委が行う研修について、賃金交渉の要求書では「初任者研修及び

中堅教諭等資質向上研修は縮小し、法定ではない他の年次研修は廃止すること」となっています。今回提出した要望書では、「県教育委員会などが実施する各校より参加を求めめる研修や連絡協議会の種類や回数を減らすこと。また、全校からの参加を一律に求め

2. 採用審査に関する申し入れ書

「2025年度教員採用候補者選考審査に関する申し入れ書」も提出しました。23年夏までは全国で一番早いレベルの日程(6月中旬)で行うことで全国トップ

ないこと」や「県教育委員会などが実施する研修や連絡協議会の事前提出書類、事後報告書などはその内容を簡略化すること」と表現しています。賃金交渉で要求したことも含めて、実際に向けた検討を要望しました。

ブクラスの競争倍率を確保していた高知県の教員採用審査です。しかし、24年の採用審査では文科省が主導して、民間企業の採用日程を考慮し6月中旬に採用審査を行う方向になっています。すでに発表されている他県の動向では、一番早い県は5月12日を予定しています。23年夏のままの日程では、高知県の「他の地域より早い日程」というメリツトはなくなりつつあります。しかし、今まで以上に早くすれば、年度当初の学校の多忙な仕事に慣れながらこなしにしている着任中の臨教にはますます負担になります。もし年度開始から一ヶ月程度の日程で審査を実施するならば、それまで臨教の希望届けを出さず試験対策

に集中する人が生まれても不思議ではありません。

23年12月17日に行われた「特別選考」では、一日で終わる教職教養の筆記審査と面接(模擬授業を含む)で行ったので、一次・二次とふるい落とすための試験をこれからも続ける必要はありません。全国とは違う日程で行うことで受審者数を確保したいのであれば、着任中の臨教にも配慮して以前のような「夏休み中に戻す」逆転の発想も選択肢の一つです。また、着任中の臨教については一次審査完全免除など審査内容の一層の軽減を図ることなども要望しました。

3. 人事異動に関する申し入れ書

12月25日には、

「教職員の人事異動に伴う勤務条件に関する申し入れ」を提出しました。異動原則の確立や、管理職登用についての要望(ふさわしい人の登用等)、安易な兼務発令を行わないこと、再任用者の希望の尊重などが内容です。特に新採者に関して、県外からの採用も増えていることも考慮し、家庭的な事情を十分収集することを要望しました。また、異動に伴い引越しを行わざるを得ない人もいることから、効果的な内示制(例えば一ヶ月程度前に異動が分かる内示)も求めました。3月末の異動発表後、異動した人も留任した人も誰もが気持ちよく新年度を迎えられる学校となるよう、実現を強く要望しました。

*これら三つの要望書などは、高知県教組のHPで見ることが出来ます。HP内の「情報BOX」をご覧ください。

お城下

お正月の楽しみはいろいろ。それが様変わりしてきたと、毎年実感します▼ま

年を終了。年賀状じま

い」と宣言してくる人が増加。理由は年齢ではなく、年賀状自体を止めるということなのでしょう。年末(二学期末?)の忙しい中で「年に1回の生存確認」的なハガキを書く時間もないという人も多いでしょう。来年は85円だし▼そんな宣言をした人にこちらから出さずかどうか、かなり迷っています。返事がなくてもこちらからのあいさつだと思いたい。この正月もそのうちの何人かには出しましたが…

▼家の注連飾りは絶滅危惧種。車のそれは絶滅。元日から開いている店もある中では、初荷も廃れつつあるかも。おせちはまだ多いですが、七草がゆはどうかな?▼門松も風揚げも羽根つきも見ない街角を歩きながら、初詣に。本年が良い一年になりますように▼お年玉は廃らないよね?(和)

学びの秋、高岡でも行われました

4年ぶり学校施設で実施!

10月7日(土)、中土佐町立大野見中学校で、「子育て・教育を考える集い」を行いました。今年テーマは、「子どもを見つめ、世の中を見つめ、希望ある

未来を!」学校・地域でわたしたちができることを共に考えよう。昨年までの三年間は、コロナ禍で学校での開催が難しかったため、規模を縮小して高岡教育会館で行なう

ていきましたが、今年度は四年ぶりに、地域の方にも広く呼びかけ、学校の校舎をお借りして開催することができました。午前中の分科会には32名の参加があり、国語

算数・数学、理科、教育条件、仲間づくり、おしゃべり保健室の6つの分科会で、実践交流や悩みを交流し合いました。

の感想では、「学級での取組について、現職の先生方や退職された先輩方からいろいろな助言を頂き、今後の展望が持てた。」

「かけ算の学習は、単に九九の暗唱だけでなく、九九の不思議や九九の意味を学びながら、順序性を大切にしていこうと思った。」

「性教育へ関わることへの第一歩から、科学的に性教育を教えることなど、幅広い実践をお聞きすることができ、勉強になった。」

午後には、翻訳家の服部雄一郎さんに『ごみを出さないシンプルな暮らし』高



大野見中学校舎 (HPより)

知で見つけたエコと子育て」という演題で講演をして頂きました。役場のごみ担当職員の経験をきっかけにごみの分別に興味を持ち、家族を連れてアメリカに留学し、「ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)」

運動をされるようになったというユニークな経歴をお持ちの参加者からは、「一人が百やるより、百人が三割すれば30%減らせる」というこ

とを聞いて、自分ができることを少しづつやってみようと思っただ。」「日本のリサイクル率が世界で下位だということに驚いた。モノを減らし

てもっとシンプルに暮らしたい。」「安いものを買うという行為が、無駄な生産を続けさせるし、環境に配慮した企業の

す。解消のために、短期的には持ち時数の軽減や総括安全衛生委員会の設置など、中長期的には教育予算のOECD並への増額・少人数学級の実現などを主張しています。

商品を選ぶということもエコにつながるということが分かった。」「という感想が寄せられました。

これからも高岡教組では、地域や保護者とともに考え、学び合う教研を目指していこうと思います。(高岡教組教文部長・氏原亜佑)

全教が12月25日二つの発表

教員不足調査結果発表

全国で3112人不足

全教が、全国の加盟組織と教組共闘連絡会に参加する組織を通じて、32都道府県・12政令市で23年10月1日付けで教員不足の実態を調査しました。その結果を、12月25日に発表しました(写真左)。

その結果は、全国で3112人が不足していることが判明しました。そのうち半数以上の1623人が小学校で、小学校の教職員不足が深刻です。

23年5月にも同様の調査を行っていましたが、その時の回答を寄せてくれた自治体だけを比べても1.44倍になっており、深刻さは増えています。



病休者続出の現状に

書記長談話を発表

12月22日、文科省が22年度の公立学校教職員の人事行政状況調査を発表しました。その結果は、精神疾患による病気休職者数は前年よりも642人増の6539人。過去最多を更新しました。一ヶ月以上の病気休職取得者を加えると、2万376人。このうち、半数以上の1万2192人が精神疾患です。

この現状に対して、「ゆとりを持って子どもたちに向き合うことのできる環境をつくること」を求めて、全教書記長談話を発表しました。具体的な要求として、教育予算増や、教職員定数改善、全国学テの悉皆調査の中止等を求めています。

※二つとも、全教HPで見られます。

学校でのハラスメント防止 その4 県教委の対応の問題点③

今回より、土佐清水市立小学校で生じた、教頭による臨時教員に対するセクハラ・パワハラ事件の問題点について紹介します。

○事件を報告しなかった市教委

事件の詳細は新聞報道等がありましたので省略しますが、問題の出発点は土佐清水市教委の対応の誤りです。

教頭によるセクハラ行為は、1学期早々に始まり、「『関係がバレることはない。俺の愛にこたえて』とLINEで送信し、女性が拒んでも『俺が自分の女してもつといい女にする』などと送っていた」といいます。

今回より、校長はすぐに市教委に報告したようです。懲戒処分、県教委に報告すべき案件でした。ところが、市教育長は、「『完全なセクハラ』『訴えられたら終わりぞ』と教頭をしかることですまし、県教委への報告は行いませんでした。

もし、市教委が県教委に報告し、県教委が適切な対応を行っていたら、その後の問題は生じておらず、臨時教員が任期中で退職することもなかったはずでした。

市教委の対応は許されるものではありません。この点は土佐清水市議会でも厳しく追及され、市教委は「ハラスメントガイドライン」の修正を行いました。しかし、責任の全

てを市教委に負わせることにも疑問を感じます。県教委が慌ててハラスメント「対応マニュアル」を作成し、県教委への報告を明文化したのは懲戒処分発表後の7月のことでした。

○被害者を守らない県教委?

市教育長の注意により一時おとなしくしていた教頭ですが、11月から臨時教員に対するハラスメントを再開します。教頭の関与が疑われる怪電話も学校にかかるようになり、臨時教員は身の危険を感じて登校できなくなり

ます。ここに至って初めて市教委は「教頭のハラスメント行為」を県教委に報告します。理不尽なハラスメント行為により、被害

害者が登校できなくなっているのですから、まずは加害者と被害者を切り離し、被害者の就労環境を整えるべきでした。怪電話に対する毅然とした対応も必要でした。

ところが、校長、市教委、県教委はいずれもその責任を果たさず、被害者は病休・年休の期限が切れた1月に退職させられることになりました。

この事件、加害教員に対する懲戒処分は行われましたが、被害者を守らなかったこと、責任については不明のままです。「被害を相談しても守ってくれない」という前例を、県教委は放置するつもりでしょうか。この点についての総括抜きに、この事件は終わらないと考えます。

この事件について、この小中学校課の対応の問題について、次回以降紹介していきます。

【みなさんの声】

○教諭や講師が足りない、と感じなくてすむ年度はないですね。県西部の学校に居た時には、県の端っこの地域では講師不足も致し方ないか、と思っていました。

ところが、高知市内の学校に赴任しても講師不足の状況は県西部と変わりない状態。どこもそうなのかと、なんだか悲しくなりました。

○再任用で部活動の日々。これ、いつまでもするの？見通しが

立たない……。

○四十肩になってしまいました。たまらぬ痛い。デスクワークも休憩を取りながらが大事です!

○冬休みに入ったが、某県立学校は、悉皆と言われる研修があったり、朝から17時まで研修や会議が休む間もなく入っているという4月の組織職員会のようなスケジュールということに大変驚いている。もちろん年が明けても5日から会議や研修。ゆっくり休んでリフレッシュ

シユできる日はないのでだろうか。

○二期最後の授業で門松を作り、学校の玄関に飾りました。日本の伝統行事も学校で伝えないと、派手な外交文化に吹き消されてしまうのでは……とも思う年の瀬です。

○歳を重ねるごとに月日が早く過ぎると感じます。たいした仕事も出来なかったと反省しきりの毎日です。

○インフルエンザが流行っていて大変。

あなたもぜひ総合共済に!

月々600円で給付内容は充実。

しかも、退職退会時には掛け金を全額お返しします。詳しくは下記のアドレスからどうぞ。

<https://www.zenkyo.org/kyosai/>



教職員のための自動車保険は

全教自動車保険

教職員と家族を守って33年



WEBでかんたん見積依頼



右のQRコードから見積り依頼を→

お問合せは代理店ケンキョーまで ☎ 0120-459-813

平成大合併で消えた自治体名⑩

1		2		3	4
				5	
6	7		8		
9			10		
	11				
12			13		

- 【タテのカギ】
1. 初詣に行つてパンパン。
 2. こたつに入つて〇〇〇を食べるなんて、時代遅れ?
 3. サツカーならばスローイン、ではラグビーは?

4. 〇〇耳を持っていると言つたのはどこの国の首相?
7. 臨教への〇〇〇試験科目免除拡大を!
8. おはぎの別名
1. 1月11日、これ

11. 冬のセーターはこれで作ると暖かいね。
12. 木下順一「夕鶴」、与ひようと〇〇
13. 知識と徳行。〇〇合一

をやる家庭も少なくなつた。
5. くつつきワード
6. 〇〇、ほ〇〇し、〇〇ら
6. 上等の和菓子を作る時に使う材料の一つ。
9. 読めるかな? 「出居」、応接間・客間に充てられた座敷のこと
10. 〇〇〇

- 【11月号の当選者】
- 「さがちよう(佐賀町)」でした。抽選の結果、次の3名が当選されました。

枠に入る7文字で、平成の大合併で高知県から消えた自治体名(住所として残っている場合はありますが、自治体としてはなくなった名前)を作つて下さい。①解答②郵便番号・住所③氏名(匿名希望の方はペンネーム可、ただし本名は忘れずにお書きください)④職場名⑤職場の話題か教育通信の感想、を書いてメールまたは葉書で送つて下さい。締切は2月29日。3名の方に図書カードを進呈。⑤は紙上で紹介させていただきます。



おめでとうございませす。
コーヒーさん
(高知市立特支)
Akira 88さん
(西土佐中)
秋山義豊さん
(大川小中)

【みなさんの声より】

〇昨年の勤務校の文化祭に行つてきました。教え子が一生懸命頑張っている姿にパワーをもらいました。

〇最近心は心にゆとりができ、クロスワードを解くことが楽しみになってきました。

〇1回目の「中村市」以降、答えに村の名前がしばらく続いていたのに、初の町名ですね。そう言えば、今すんでいるところも生まれ故郷も、消えた自治体名がついていた土地だなあ。(いつもご投稿ありがとうございます)

月号が「春野町」だったのですが...。おかしいなと思いついたら、この投書子は、たまたまその月だけ、投稿されています。だから「初」と思われたんですね。お忙しかった月かな。

〇人数の割には、広い芋畑、おまけに元田んぼを畑にしているからか、水捌けが悪くて土が硬く、毎年、苦行とさえ感じている芋掘りが。今年、大きなお芋がゴロゴロとれて、気づけば半分掘っただけで、いつものコンテナがいつぱいに。こうなると、苦行と楽しい芋掘りになりました。

〇先日、人権の研修がありました。まだまだ研鑽を重ねないといけないと感じました。

〇学校の花壇に植えた大根が何とか実りそうで嬉しい気持ちです。

〇未来につながる防災の取組を顕彰する「ぼうさい甲子園」で大賞を受賞。「防災の一步はまず健康作りから」をコンセプトに完成させたウォーキングマップとともに、長年の取組が評価されたものです。「地区に多く住む高齢者に、逃げ切れる体力を付けてもらいたい」「幅広い年齢層に使ってもらいたい」「閉校後も繰り返し使ってもらいたい」。地域への思い、先輩方への思い、閉校への思い。たくさんの方に、一杯の気持ちに乗せて、神戸での表彰式&発表会で全国発信。初の大舞台に果敢にチャレンジし、素晴らしい発表を果した子ども達の頼もしい姿に、目頭が熱くなりました。活動をサポートしてくれた方々、遠路応援に駆けつけてくれた方々、地元からエールを送ってくれた方々。たくさんの方々に支えられ、貴重な体験を積むことが出来ました。(校名をお知らせしません。興津小のみなさん、おめでとうございませす!)

(今回も、3面にもみなさんの声を載せています。ぜひお読みください。)

メールはこちら

〇1回目の「中村市」以降、答えに村の名前がしばらく続いていたのに、初の町名ですね。そう言えば、今すんでいるところも生まれ故郷も、消えた自治体名がついていた土地だなあ。(いつもご投稿ありがとうございます)

月号が「春野町」だったのですが...。おかしいなと思いついたら、この投書子は、たまたまその月だけ、投稿されています。だから「初」と思われたんですね。お忙しかった月かな。